

中心市街地における公共空間の空間構成と利活用の在り方に関する研究

正会員○村上大昂*1 姫野由香*2
鄒大雪*1

7.都市計画-3.市街地変容と都市・地域の再生 d.中心市街地
中心市街地, 活性化, 公共空間, 大分市

1 研究の背景と目的

全国の市町村において,中心市街地の空洞化や衰退が共通の問題となっている。それにともない, H18年のまちづくり三法により, 認定中心市街地活性化基本計画が各地で策定され, まちなか居住のアメニティやにぎわい創出などを目標に, 公共空間の利活用についても検討がなされている。また, 国土交通省は平成17年に「地域の活性化等に資する路上イベントに伴う道路占有基準」を制定し, 平成23年には都市再生特別措置法の拡充を通じて, 道路の民間活用を支援している。さらに, 平成16年には河川敷地占用許可基準の特例措置が制定され, 河川敷に対し広場やイベント施設等を設置することが認められた。このように公共空間の機能の拡充による都市アメニティの向上に資する規制緩和の動きもある。一方大分市では, 中心市街地活性化基本計画の市街地整備事業による公共空間の改善が数多く行なわれている。なかでも平成26年から平成27年にかけて「シンボルロード整備事業」や「JR大分駅ビル整備事業」などの大規模な再開発事業も完了したことで, 大分市中心市街地の都市空間はその様相が大きく変化する過渡期にある。

これらの背景から, 本研究では大分市中心市街地活性化基本計画区域内にある公共空間の管理状況や空間特性を整理する。調査結果から利活用の促進が図られている公共空間の特徴を考察し, 今後の公共空間の在

り方を検討するための有益な知見を得ることを目的とする。

2 既往研究との位置づけ

本研究に関連して, 三浦¹⁾らは恒久的歩行者専用道路の国内における先駆的な事例である「旭川平和通買

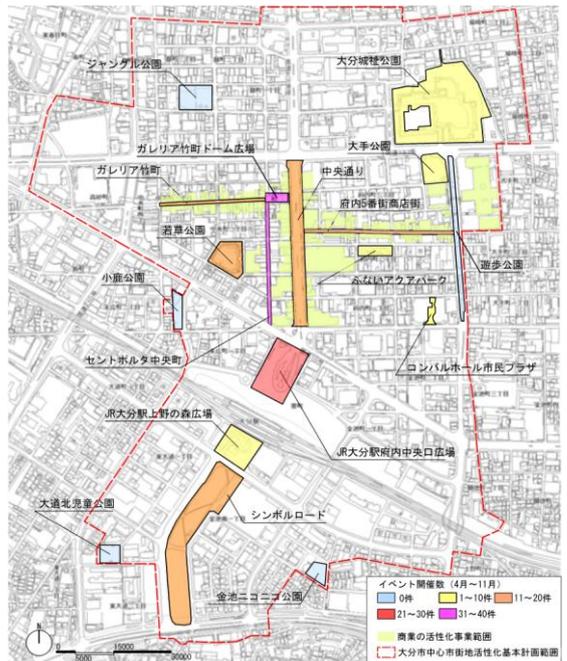


図1 公共空間の分布とイベント実施件数

表1 公共空間の基本情報

用途	都市計画公園								駅前広場		都市計画道路				商店街				都市施設	平均値
施設名	ジャングル公園	大分城址公園	大手公園	若草公園	ふないアクトパーク	小鹿公園	大道北野公園	金池南公園	JR大分駅内中央口広場	JR大分駅野の森広場	シンボルロード	中央通り	遊歩公園	セントポール中央	ガレリア竹町ドーム広場	ガレリア竹町	府内番街商店街	コンパルホール市民プラザ		
管理主体	公園緑地課	公園緑地課	公園緑地課	公園緑地課	公園緑地課	公園緑地課	公園緑地課	公園緑地課	駅周辺総合整備課	駅周辺総合整備課	大分市の道徳課	土木管理課	公園緑地課	土木管理課	大分市商店街振興組合	大分市商店街振興組合	大分市商店街振興組合	府内番街商店街振興組合	コンパルホール管理課	
許可申請先	公園緑地課	公園緑地課	公園緑地課	公園緑地課	公園緑地課	公園緑地課	公園緑地課	公園緑地課	駅周辺総合整備課	駅周辺総合整備課	大分市の道徳課	土木管理課	公園緑地課	土木管理課	土木管理課	土木管理課	土木管理課	土木管理課	土木管理課	コンパルホール管理課
イベント件数(4月~11月)	0件	5件	2件	12件	6件	0件	0件	0件	24件	1件	15件	11件	0件	33件	34件	14件	14件	14件	4件	
面積(m ²)	5,531	40,114	3,500	6,158	2,362	878	3,000	2,500	16,000	7,900	24,785	16,425	3,812	2,753	1,442	1,953	3,670	350	7,952	
緑の面積の割合(上空写真%)	61	31	53	28	17	10	49	7	1	1	79	5	40	0	0	0	8	0	22	
HDの角度(°)	186	44	196	105	22	13.9	9.4	16	11.8	12	11.1	38.9	27.4	39.9	25.9	32.7	53	48.9	23	
多行者通行量(H24年度1日平均)	3,799	2,691	2,691	2,180	1,650	943	943	943	9,038	5,964	5,964	5,386	1,650	10,994	5,968	4,343	4,373	4,435	4,109	
27年度路線幅(千円/m)	83	160	120	110	135	120	64	103	290	223	106	350	120	215	220	90	180	150	158	
道路との接道幅の割合(%)	50	7	4	20	48	5	4	7	33%	43	65	18	20	11	29	8	6	22	20	

A Study on the Spatial Composition and the Profit Utilization of the Public Spaces in the City Center

MURAKAMI Hiroaki, HIMENO Yuka, ZOU Daxue

物公園」に対し、取り組みの変遷を明らかにすることで、社会情勢の変化との対応関係からマネジメントの課題を明らかにした。また佐々木²⁾らは同対象地に対し、統計の分析と来訪者アンケートの分析より、「買い物の利便性」の現状分析と、その向上のための課題を明らかにした。これらの研究を鑑み、本研究では、一カ所の公共空間に着目した分析方法ではなく、中心市街地活性化基本計画の範囲内全ての公共空間に対し、空間調査や空間評価、管理状況などの分析を行うことで、それぞれの特徴を把握し、用途別に利活用の在り方を検討する。

3 研究の方法

本研究では大分市中心市街地活性化基本計画の範囲内の公共空間を対象として、利活用の実態を把握する。本研究における「公共空間」とは、都市計画法に制定されている、市所有の都市計画公園及び駅前広場等の歩行者に開放された公共性の高い空間と定義する。まず、中心市街地の公共空間を、管理主体ごとに分類した上で、それぞれの「管理主体」と「イベント開催数」の傾向を明らかにする。次に、現地調査および交通量調査等^{注3)}の情報により、周辺環境および空間特性を把握する。さらに、各公共空間の利用者を対象にヒアリング調査を行うことで、公共空間の利用実態および空間評価を明らかにする。最後に相関分析により、空間特性と利用者の公共空間に対する評価との関係性を考察する。

4 対象とする公共空間と管理状況

本研究で対象とする公共空間の分布と、平成27年の4月から11月の期間に各公共空間で行われたイベント^{注1)}の実施件数を示す(図1)。さらに、各公共空間の基本情報を示す(表1)。対象とする公共空間は、歩行者に開放された公共性の高い空間である、計18箇所を選定した。管理主体は大きく分けて、公園を管理する

公園緑地課、道路を管理する土木管理課、駅前広場を管理する駅周辺総合整備課、公共施設の管理者の4種類に分けられる。しかし、「大分いこいの道」については、市民ボランティア団体である「大分いこいの道協議会」が「駅周辺総合整備課」と連携して主体的に管理運営を行っている。また、「セントポルタ中央町」「ガレリア竹町ドーム広場」「ガレリア竹町」「府内5番街商店街」には各商店街に商店街組合が存在しており、商店街の清掃等の維持管理、市へのイベントの申請などの役割を担っている。

次に、イベントの実施件数では、「JR大分駅府内中央広場」「セントポルタ中央町」「ガレリアドーム広場」の3ヶ所が、4月から11月までの期間で実施したイベント件数が20件を上回っている。図1と表1より、イベント^{注2)}実施件数が多い公共空間は、「歩行者通行量」「平成27年度路線価」が全体平均よりも高く、商業の活性化事業が中心的に行われているエリアである。

5 ヒアリング調査結果からみた公共空間の特徴

公共空間利用者の属性・利用実態・公共空間の評価について把握するために、ヒアリング調査を実施した(表2)。全回答数は635件であり、利用者の属性は、中心市街地内に居住している利用者が約3割、中心市街地以外の大分市内に居住している利用者が約5割となり、約7割が大分市内に住む利用者であった。

5-1 公共空間における利用実態の特徴

次に18ヶ所の公共空間を管理主体より、「都市計画公園」「駅前広場+シンボルロード」「商店街」「都市計画道路」「公共施設内のオープンスペース」の5種類に

表2 ヒアリング調査の概要

調査方法	利用者へのヒアリング調査	属性				
		性別	年齢	居住地		
調査内容	1個人属性	男性 49%	20歳以下 18%	1大分市中心市街地 27%		
	2公共空間の利用目的	女性 51%	20歳代 15%	2大分市(上記以外) 49%		
	3利用前後の居場所		30歳代 19%	3別府市 5%		
	4利用交通機関		40歳代 14%	4由布市 2%		
	5公共空間に対する要望		50歳代 11%	5臼杵市 5%		
	6公共空間の特性について		60歳代 13%	6豊後大野 1%		
	7総合評価(5段階評価)		70歳代 7%	7竹田市 0%		
調査期間	平成27年11月9日~12月8日	80歳以上 3%	8その他 11%			
回答数	635件					



図3 公共空間の利用実態

分類し、利用実態について利用目的・利用前後の居場所・利用交通機関の傾向を考察する(図2)。「都市計画公園」は、利用目的として、「休憩」が約3割、利用前後の居場所は「家」が約4割「職場」約2割、利用交通機関は「徒歩」が約7割と多く分布していることから、近くの自宅や職場から、休憩の場として、徒歩により公園が利用されていることがわかる。次に、「都市計画道路」の利用目的は、「買い物」が約5割、「通行」が2割、利用前の居場所は「家」が約3割、「大分駅ビル」が約2割、利用交通機関は「徒歩」が約5割、「電車」が約3割という結果となった。このことより、公共空間近傍の商業施設に買い物を目的として訪れる人が多く、近隣に居住している人々以外は、電車を主な交通機関として訪れていることがわかる。

5-2 相関分析による空間特性と空間評価の関係性

ヒアリング調査より、利用者による公共空間の評価をグラフに示す(図4)。調査項目に、形容詞対による7項目と、総合的な満足度の計8項目を設定し、それぞれ5段階で評価した。図4より、全ての公共空間において、「立地が良い」と「入りやすい・立ち寄りやすい」の項目は、「非常に良い」と「やや良い」での合計が7割以上であった。このことより、中心市街地における公共空間は利用者にとってアクセスしやすい空間であることがわかる。

次に、図4で示した人々の公共空間に対する評価と空間特性との相関関係について分析する。相関分析^{注4)}の結果より、有意水準0.05以下の項目を抽出すると、『2-1.自然を感じる』『2-3.開放的に感じる』『2-4.賑やかに感じる』『2-8.総合的な満足度』の4項目に対し相関性がみとめられる空間特性があることがわかる。『2-1.自然を感じる』項目と「緑の面積の割合」との相関係数は0.53、「H:Dの角度」が-0.61、「歩行者通行量」が-0.46、「路線価」が-0.50、「イベント実施件数」は-0.49と相関がみられることがわかる。このことから、

緑の面積の割合が多く、H:Dの角度が低い空間ほど、人は自然を感じる傾向にあるといえる。一方で、人工

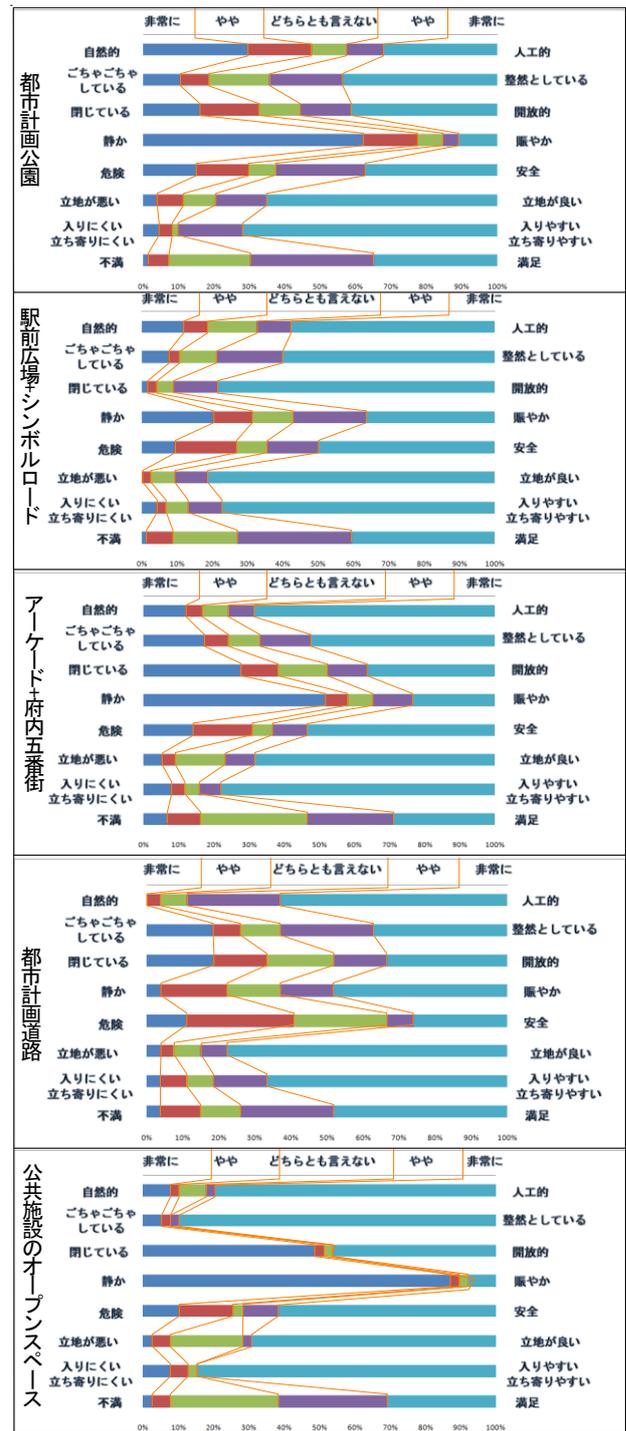


図4 利用者からみた公共空間の評価

表3 公共空間の認識と空間構成の相関性

公共空間の印象	調査項目		面積(m ²)		緑の面積の割合		H:Dの角度		歩行者通行量		27年度路線価		道路との接道幅の割合		イベント実施件数	
	係数	水準	相関係数	有意水準	相関係数	有意水準	相関係数	有意水準	相関係数	有意水準	相関係数	有意水準	相関係数	有意水準	相関係数	有意水準
2-1. 自然を感じる	0.35	0.16	0.53	0.02	-0.61	0.01	-0.46	0.05	-0.50	0.03	-0.26	0.31	-0.49	0.04		
2-2. 整然としている	0.17	0.49	-0.06	0.81	-0.12	0.63	-0.14	0.58	-0.11	0.66	0.14	0.58	-0.15	0.55		
2-3. 開放的に感じる	0.37	0.13	0.11	0.65	-0.32	0.19	0.34	0.17	0.25	0.31	0.55	0.02	0.16	0.52		
2-4. 賑やかに感じる	0.03	0.91	-0.07	0.79	-0.06	0.81	0.43	0.07	0.48	0.04	0.18	0.50	0.25	0.32		
2-5. 車・自転車との関係が安全	0.22	0.38	0.20	0.42	0.04	0.87	0.05	0.83	-0.10	0.71	-0.01	0.98	0.04	0.89		
2-6. 立地が良い	0.15	0.55	0.30	0.23	-0.09	0.71	0.16	0.52	0.07	0.77	0.23	0.38	0.07	0.77		
2-7. 立ち寄りやすい	0.02	0.92	0.12	0.65	0.12	0.64	0.08	0.74	0.05	0.84	0.17	0.51	0.06	0.80		
2-8. 満足度	0.27	0.27	0.53	0.02	-0.26	0.80	-0.16	0.54	-0.12	0.64	0.32	0.21	-0.26	0.30		

片側検定 両側検定

的な空間と感じる公共空間の方が、歩行者通行量と路線価が高く、イベント実施件数が多い傾向にある（負の相関）といえる。次に、『2-3.開放的に感じる』項目と、「道路との接道幅の割合」との相関係数は0.55である。このことから、敷地境界に遮蔽物が少なく道路との接道幅が広いほど、人は開放的に感じる傾向にあるといえる。さらに、『2-4.賑やかに感じる』項目と「路線価」との相関係数も0.48であることから、「歩行者通行量」と「路線価」が高いほど、賑やかに感じる空間である傾向にあるといえる。最後に、『2-8.総合的な満足度』と「緑の面積の割合」との相関係数は0.53であり、緑の多い空間ほど、公共空間の総合的な満足度は高い傾向にあるといえる。

6 総括

本研究では、大分市中心市街地内の、公共空間に関する用途、空間特性、利用者に対するヒアリング調査のデータをもとに、利活用の促進が図られている公共空間の特徴を考察した。考察より以下の4点が明らかとなった。

公共空間の用途は、管理主体により「都市計画公園」「都市計画道路」「駅前広場」「商店街」「公共施設内のオープンスペース」の5種類に分類され、「商店街」と「シンボルロード」は、振興組合やボランティア団体等の民間組織が、土地所有者である市と連携して主体的に管理運営が行われており、一層複雑になっている。

平成27年4月から11月の期間、公共空間でのイベントの実施件数は、「JR大分駅府内中央口広場」「中央町アーケード商店街」「竹町商店街広場」の3ヶ所が20件を上回っている。イベント実施件数が多い公共空間は、「歩行者通行量」「平成27年度路線価」が平均よりも高く（表1）、商業の活性化事業が行われているエリアであることがわかった（図1）。

ヒアリング調査の結果より、「都市計画公園」は近くの自宅や職場から休憩の場として徒歩で利用されていること、「都市計画道路」は公共空間に面する商業施設での買い物を目的として電車や徒歩により訪れる人が多い傾向にあることがわかった。

相関分析の結果より、4項目の相関性がみられる空

間特性があることが明らかとなった。『2-1.自然を感じる』項目は「緑の面積の割合」「H:Dの角度」「歩行者通行量」「路線価」「イベント実施件数」と、『2-3.開放的に感じる』項目は「道路との接道幅の割合」と、『2-4.賑やかに感じる』項目は「歩行者通行量」「路線価」と、『2-8.総合的な満足度』は「緑の面積の割合」と相関性があると確認した。

以上の結果より、大分市中心市街地では、イベントによる公共空間の利活用は、商業の活性化事業のエリアで活発的に行われている傾向にある。その背景には商店街振興組合などの民間団体が、市と連携しながら公共空間の管理運営を行っている影響があると考えられる（表1）。一方で都市公園は、近隣に住居や会社の人々の休憩の場として機能している側面があり、緑の面積の割合が大きい空間ほど、総合的な満足度の高い公共空間であることもわかった。これらのことから、公共空間の特徴や管理状況によって、イベントなどの活発な利活用がなされている空間や、市民の憩いの空間など、多様な利活用の在り方が存在していることがいえる。

今後は、各公共空間における市と管理主体やボランティア団体などの連携関係をより明確にし、管理組織の側面からみた公共空間の利活用の展望を検討する必要がある。

【補注】

- 注1) 本研究におけるイベントとは、開催期間中に不特定多数の人々が参加することのできる催しものを指す。
- 注2) イベントの種別は、屋台などを利用した飲食イベント、ステージを利用した催しや音楽イベント、展示会等があげられる。
- 注3) 空間特性は「イベント件数」「面積」「緑の面積の割合」「H:Dの角度」「歩行者通行量」「27年度路線価」「道路との接道幅の割合」の7項目を設定し、調査した。
- 注4) 本研究では、ピアソンの積率相関係数を用い、相関分析を行った。

【参考文献】

- 1) 三浦詩乃 (2014) 旭川平和公園のマネジメントの変遷に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 2014-2
- 2) 佐々木悟 (2006) 中心市街地商店街の活性化と買物の利便性-旭川市中心市街地「平和通り買い物公園商店街」来街者アンケートを通して-, 旭川大学紀要 2006年
- 3) 朝日照太 (2014) 路線価の変遷にみる中心市街地における法政計画事業の影響, 大分大学大学院修士論文 2015-3
- 4) 大分市商工労政課 第2期大分市中心市街地活性化基本計画書 2010年
- 5) 大分市商工労政課 大分市中心市街地活性化基本計画書 2013年
- 6) 駅周辺総合整備課 大分都市計画事業大分駅南土地地区画整理事業概要 2006年
- 7) 郭 東潤 (2014) 中心市街地における街路空間の利活用と景観教員に関する研究, 日本建築学会技術報告集, 2006-6
- 8) 大分市商工労政課 大分市中心市街地活性化計画書 2010年

*1 大分大学大学院工学研究科博士前期課程 Graduate Student, Oita Univ.

*2 大分大学工学部福祉環境工学科・助教 博士 (工学) Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng. Oita Univ., Dr. Eng